

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式 2】

No. C-11

部門名： 地域とともにある学校実践部門	エントリー名： 上越市立直江津東中学校
活動名：地域の子は地域で育てる（12文字以内） キャリア教育を中核とした地域連携（16文字以内）	
解決すべき課題： 過去に生徒間のトラブルや服装の乱れ、集団生活に支障をきたす荒れた時期があった。生徒指導面で多くの問題を抱えていたため、対処療法的な解決手段しか取れない状況が続いていた。目の前で起こる事案に振り回されることなく、生徒が、生き生きと活動し、主体的に学習に取り組み、部活動に情熱を向けられるようにするには、どうしたらよいか、模索してきた。地域の子どもは地域で育てるという地域の方々の協力を得て、解決の方策に地域と連携したキャリア教育の推進を掲げ、中学校区全体で取り組むことにした。	
目標・方針： キャリア教育は、生徒の「生きる力」に直接、深く関わるものであり、長期的に取り組む必要がある。さらに、学校だけでなく、より多くの人との関わりを通し社会性等の育成を目指すことが大切である。小中9か年を見通した、地域とともにある学校として、教育課程を工夫して取り組んだ。本実践では、コミュニティースクール（以下CS）の中に設けたキャリア教育推進部会の作成によるキャリア教育プランの概要と実際の活動内容を紹介する。	
活動内容： 1 小中連携を意識したキャリア教育推進組織の確立 中学校区5つの小・中学校が学校運営協議会の組織を統合した直東学園という組織を立ち上げ、その中に、キャリア教育部会を設置した。各校からの担当者と代表校長（部長）、そこにCS事務局が連動し、9か年のキャリア教育プラン（表1）を策定し、学園小中5校で共有している。中学2年生で地域と学校が協働して「立志式」（写真1～3）を開催している。メインは、町内会長から所属町内の中学生一人一人に立志のバッジを贈呈していただくもので、地域を挙げて、子どもたちの成長を確認する機会として効果的である。 2 地域と連携した生き方指導 「キャリア教育を中核とした生き方教育」をテーマに学年の段階に応じて、育みたい資質・能力を設定し、地域と連携しながら各学校で取り組んでいる。中学校では、次のような活動を実践してきている。 1年生；「地域の大人から学ぶ生き方講座（写真4）」「職場見学」 2年生；「職場体験学習（写真5）」「立志式」 3年生；「卒業生に学ぶ会」などの活動を、地域からの支援を受け、連携して実施している。	
活動の成果： 学校と地域が連携して進めるキャリア教育の取組が改善傾向につながった。全国学力学習状況調査の結果で5年前と比較し、各項目とも全国平均との差は縮まってきた。（表2）特に地域行事については、学園発足以来上昇し全国平均を上回る結果が出ている。他の項目も年度による差はあるが、上昇傾向にある。生徒は、全体的には落ち着いて学校生活を送られるようになってきていることから、取組の成果が上がっていると考え。子ども一人一人の自己理解が進み、社会性が徐々に身についてきているからであろう。 とりわけ、小中一貫したキャリア教育を軸に学校課題の解決を図ることにより、生徒一人一人の「たくましく生きる力」の育成に結びついた。CS事務局会議を定例化することで、地域と一体となった取組が一層充実し、たくさんのお大人と活動し、認められる機会が増えた。その結果、子どもたちは自尊感情を育み、積極的に自己実現できる生徒に成長した。	
アピールポイント（アイデアや工夫）： <ul style="list-style-type: none"> キャリア教育を中核とした教育課程の編制は、小中連携だけでなく、地域との連携にも、効果的であった。 9か年を7つの期に分けることにより、保護者だけでなく、地域とともに生徒を見守ることで、生徒一人一人が地域への所属感を増すなど、社会性の育成に寄与している。 町内会長など地域の大人が、地域の子どもをわかることの大切さを、あらためて認識した。すなわち、地域の子は地域で育てるという大人の気概が、生徒指導困難校を変えたのだといえる。 	

<写真、図表添付欄>

<表1> 9か年のキャリア教育プラン（中学校区5つの小・中学校で共有）

	前期				中期				後期	
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年前期	2年後期	3年
キャリア教育期	基礎能力育成期		基本スキル育成期		自己肯定感・自己理解育成期		職業観育成期	勤労観育成期	進路模索期	進路選択期
育みたい資質・能力	コミュニケーション能力 役割把握・認識能力		人間関係形成能力、 情報活用能力、 計画実行能力		人間関係形成能力、 社会形成能力、 課題解決能力		自己理解・自己管理能力	自他の理解能力、 将来設計能力	自己管理能力、 キャリアプランニング能力	社会形成能力、 課題対応能力

※前期と中期の境目は、各小学校4年生で「二分の一成入式」を実施する。

※中期と後期の境目は、中学2年生で、地域の方を招いての「立志式」を実施する。

<表2> 全国学習状況調査生徒質問紙のここ2年間の平均値と5年前との比較
 （主な質問項目の肯定的評価の値の全国平均との差）

質問項目	H25	H30とR元 (平均値)	増減
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	-6.3%	+1.5%	7.8増
自分には良いところがあると思いますか。	-3.4%	-3.3%	0.1増
将来の夢や希望をもっていますか。	-5.9%	±0%	5.9増
今すんでいる地域の行事に参加していますか。	-13.1%	+7.2%	20.3増

<写真1> 立志式（平成30年度）



<写真2> 立志のバッジ贈呈



<写真3> 立志のバッジ



<写真4> ようこそ先輩（卒業して約10年後の先輩を招きます。）



<写真5> 職場体験

